

「真金吹く」吉備の国

「真金吹く 吉備の中山 帯にせる 細谷川のおとのさやけさ」



古代 吉備国 総社市 「鬼ノ城」より遠望 99.5.29.

「真金吹く」吉備の国 吉備の鉄と桃太郎伝説

1. 稲作と鉄器の伝来が縄文の智恵と融合して原日本がつけられた
2. 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
 - 「弥生の`暮らし」を持たらした大陸からの渡来人
- NHK 「日本人遥かな旅」より -
 - 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
3. 吉備の国「桃太郎伝説」の原型となった「温羅・うら伝説」
 - 参 考 日本 鬼伝説

「真金吹く」吉備の国 吉備の鉄と桃太郎伝説【1】

1. 稲作と鉄器の伝来が縄文の智恵と融合して原日本がつけられた

kibi0.htm by M.Nakanishi 2002.3.2.



吉備は後の時代に歌われた「鉄」と「桃太郎の鬼退治」伝説の国

「真金吹く」は吉備の枕言葉で鉄精錬で飛び散る火花の様を言い表している。

古代吉備の国 遺跡地図



鬼ノ城から眼下に広がる古代吉備の国を遠望

眼下総社市の平野の向こうに吉備の中山から古代造山古墳ほか
数々の遺跡そして四国の山並が眺望

岡山県総社市の背後にある丘陵地帯吉備高原南端の丘の上にある「鬼ノ城」に立ち、南を見下ろすと眼下には総社の市街・田園地帯が広がり、その向こうに点在するいくつかの古墳と丘陵地が見え、さらに児島半島を経て瀬戸内海・四国の山並がみえる。眼下に広がるこれらの地は古代吉備の国の中心地。

古代この総社のあたりまで内海が入り込み、古墳・丘陵が点在する。その一番左岡山よりの丘陵地が吉備の中山。眼下に広がる平野は古代吉備の国のまさに中心。

古代 朝鮮半島から北九州・瀬戸内海を通して大和へ至る大陸文化交流の道の真中にこの吉備の国

がどっしりと座っている。 渡来の民によって持たされた製鉄の技術がこの吉備の国に根付き、この古代鉄の一大生産地の覇権をめぐる諸国が争い、その覇権を握った大和を中心として日本が誕生する。

「吉備国の鉄の覇権をめぐる争い」「日本誕生前夜の鉄の争い」が「桃太郎の鬼退治」でなかったか……吉備の国に残る「鬼ノ城」とそこに伝承されている「温羅」伝説が「桃太郎の鬼退治」の元になったと言われ、この「Iron Road 和鉄の道」上での一大ドラマを描いているのではないかと……。

もっとも 現存する鬼ノ城の発掘調査からは7世紀後半大陸からの侵攻に備えて造られた多数の山城の一つと考えられている。しかし 公式にはこの「鬼ノ城」の記録は歴史書のどこにもなく、この城は元々大和勢力とは異なる吉備勢力の造った城もしくは 秘密裏に唐の備えとして築いたとの見方もある。(663年 倭国軍は朝鮮白村江で唐・新羅連合軍と戦い、大敗。 唐の再三の日本攻勢に怯えた日本が唐の侵攻に備えた 対応とすれば 発掘の結果は説明がつく。また、鬼ノ城のような歴史書に載っていない同時期の山城が瀬戸内海各地に約20もあるといわれている。)

吉備の国で何時「鉄の精錬製造」が初まったかは定かでないが、早くから大陸から輸入された鉄ていを加工する鍛冶が始り、その後鉄精錬も行なわれ、「真金吹く」の伝統が形成されていったと考えられる。総社市窪木薬師寺遺跡からは大陸製の鉄ていとともに鍛冶加工跡が出土している。

日本でも最古の製鉄遺跡の部類に入る総社千引かなくろ谷製鉄遺跡は6世紀後半の遺跡であり、6世紀後半には広く吉備の国で鉄精錬がおこなわれていたと考えられている。



総社市後背の丘陵地にそびえる「鬼ノ城」



備中で出土した大陸製鉄ていと鍛冶跡

2. 古代吉備の国 「鉄」そして「鬼」

kibi01.htm by M.Nakanishi

2.1. 「弥生の暮らし」を持たらした大陸からの渡来人

-NHK 「日本人遥かな旅」より-

弥生時代に大陸から北九州・山口に渡来した人々は今まで縄文人の暮らしを支えてきた狩猟・森の恵みに依存した採取の生活様式を一変させ、水田稲作により、安定した食料生産をもたらし、その人口を爆発的に増大させた。

また、森を切り開き、水田耕作を可能とする大規模な土木工事を可能とする鉄器並びにその鍛冶技術も大陸からもたらされた。(精練技術が何時もたらされたか? は現状まだ良く解らないがもっと後の時代と考えられている。)

これらの渡来系弥生人の集落はその人口を増加し、縄文人と融合しつつ東海・越前地方まで急速に東進・北進を続け、これらの中から巨大勢力・王国が生まれてくる。

自然環境が大きく異なる東海以東・以北の地方では急速には水田耕作は広がらず、従来の森の恵みに依存した縄文人の世界が広がっており、東進の速度は鈍った。

しかし、この地方においても 水田稲作を学ぶ者 渡来人の移住等渡来系弥生人と縄文人が融合しあい、突如として、巨大な弥生集落が形勢され、次第に稲作弥生文化並びに鉄器の拡大と共に弥生の文化の時代に移っていった。

このような縄文の暮らしから弥生への変化が生じる過程において 日本の特筆すべき点は『相手を抹殺するのではなく 従来からいる縄文人と融合する事により、変化が進んだ』事であり、この伝統は良きにつけ悪しきにつけ、今日の日本文化にも脈々と受け継がれている。つまり、『稲作や鉄の技術等をもった渡来人がやってきて、彼らが日本を席卷し、縄文人を蹴散らして日本が誕生したのではない。』と言う事が遺伝子的にも数々の古代遺跡からの数々の遺物やその分布・伝承文化からも解ってきている。

また、最近の研究では 現代にいたるまで、日本人においては、原日本人を形成した縄文人と渡来系弥生人の融合の割合に差があることも解ってきている。

(ある地方が孤立してその系統を保っているというのではなく、日本人全体の中で、よく言われる縄文系あるいは弥生系の顔という話と同じであり、その根本には根絶ではなく、融合の中ではぐくんできた結果であると言われている。)

日本形成の根幹が大陸からの渡来人によってつくられながら、古代から今現在にいたるまで、大陸文化に同化される事なく、日本固有の文化が育まれてきた理由もこれで理解できる。

この事が理解されないと邪馬台国論争を初め、日本誕生の謎を秘めた古代は見えてこないと思われる。

その後 時期的には、弥生時代後期から古墳時代前期にあたる時期 大陸から色々な技術、銅器、鉄器などが流れ込んできた時期と重なるが、西日本では各地で巨大勢力が起こり、となり、日本誕生の前夜が形成された。



弥生後期～古墳時代 出土の鉄製武器

- | | |
|------------|-----------------|
| 1. 北九州勢力 | 筑後川、有明海 |
| 2. 出雲勢力 | 斐伊川、宍道湖、中海 |
| 3. 吉備勢力 | 吉井川、旭川、高梁川、瀬戸内海 |
| 4. 伯耆 | 日野川 |
| 5. 大和、河内勢力 | 大和川、大阪湾 |
| 6. 丹後 | 竹野川、野田川 |
| 7. 越前勢力 | 白山からの九頭龍川、足羽川 |
| 8. 東海勢力 | 木曾川、長良川、揖斐川 |

これらの地域では大陸・朝鮮半島との交流の痕跡が明らかとなっており、さらには、主要な川の流域を中心に古くから鍛冶製鉄が行なわれた地域である。安定食糧である稲作による人口爆発とその水田開発工具としての鉄器製造の支配を通じ、巨大勢力 王国へと育っていった事がうかがえる。

これらの国々は互いに交易・交流すると共にさらには朝鮮半島の新羅・百済とも連携して、他の勢力を圧倒する王国に育ち、それらが並立する時代を経て、抗争・統一の時代へと突入する。日本誕生にかかわった北九州・河内・出雲・吉備・越等の国々である。

2. 2. 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」



「吉備の中山」の丘陵地



鬼退治伝説の吉備津彦命を祭る吉備津神社と吉備津彦神社

吉備国では後に古今和歌集に「真金吹く 吉備の中山 帯にせる 細谷川のおとのさやけさ」と歌われるごとく、鉄・鍛冶生産が早くから行なわれてきた鉄の一大生産地。

大陸から北九州を経て畿内へ行く途中にある吉備では、いち早く大陸の新しい文化・技術が伝わったであろう。その中で、水田耕作・勢力伸張の大きな武器となった鉄精錬・鍛冶の技術も大きな川と内深く入り込んだ内海での豊富な砂鉄の体積を使って、この吉備の地でいち早く根付き、古代鉄の一大生産地となっていった。

まさに「真金吹く 吉備の中山 おびにせる 細谷川のおとのさやけさ」である。

”真金吹く”は吉備の枕詞であり、製鉄の時に飛び散る火花を象徴している。

また、後の時代の延喜式によると吉備は「調」として鍬や鉄を納める国として記載がなされ、中世以降も備前刀や備中鍬等の鉄製で吉備の国は、全国に知られている。

この「吉備の中山」は吉備の古墳群や国分寺跡が並ぶ総社の丘陵地に隣接する別の岡山よりの小さな丘陵地。この丘陵地の麓にも 吉備津神社 吉備津彦神社をはじめ、多くの古代遺跡がある。

吉備の持つ鉄の技術は吉備の勢力伸張の武器であると共に他の巨大化する勢力にとっても魅力的なものであり、この吉備の鉄の覇権をめぐる、連合・争いが巻き起こったであろうし、この中で吉備は出雲と同様大和の勢力下に組み込まれてゆく事になる。

この鉄の覇権をめぐる争いの伝承が「鬼ノ城 温羅伝承」つまり「桃太郎の鬼退治」の伝承であろう。

ぽかぽか陽気の中 眼下に広がる鬼の城。

「鬼ノ城」の丘に立ったのはもう随分前 99.5.29. もう記憶も少し薄れているが、ぽかぽか陽気の午後。こんな温暖の地でたとえ堅固な城であるにしても南に大きく開けた地が 「悪者の鬼の城」には似合わない。もっと 山奥か 人里はなれた未開の土地でなければ・・・。

やっぱり ここでも 鬼は悪者に仕立て上げられたのか・・・・・・・・・・

産鉄の民と支配者との争い 大和にとっては悪者であっても 吉備では良き隣人・恩人でなかったか 「鬼」「鬼」と悪者として追いまわす中に何か 親しみをこめ、「福は内 鬼は外」と豆をまく節分。

21世紀のキーワードと言われる「敵対・抹殺から融合・融和へ」鬼伝説の中にある「親しみ」もこれではないか・・・・・・・・

鉄は両刀の刃。

古代 そして日本の伝統の中に 21世紀を生き抜く解がないか・・・・・・・・・・

2002.2.24. 柏にて 鬼に親しみをこめて

by M. Nakanishi

「真金吹く」吉備の国 吉備の鉄と桃太郎伝説

3. 吉備の国 「桃太郎伝説」の原型となった「温羅・うら伝説」

kibioni0.htm by M. Nakanishi

1. 桃太郎伝説の原型「温羅・うら伝説」

2. 鬼ノ城 walk - 朝鮮からやって来た製鉄集団に思いをはせながら



桃太郎伝説の鬼が住む「鬼の城」



「鬼ノ城」から古代吉備の国を望む 99.5.29.
左「吉備の中山」右 造山古墳・国分寺ほか総社市街

3.1. 桃太郎伝説の原型「温羅・うら伝説」

「温羅・うら伝説」

の悪事を働き、人々は温羅を「鬼神」
朝廷に温羅退治を申し出た。
吉備津彦命)。吉備津彦命は大軍を率いて吉備
を放つと一本は温
命中。温羅の左
られた。
命はその功により吉備津神社の祭神として今も祀れている。
続けた。
「わが妻、阿曾媛に神饌を炊かしめ
よ。これまでの悪業の償いとして、この釜をうならせて世の吉凶を告げよう。」と。
これが今に伝えられている吉備津神社の鳴釜神事である。
吉備津宮縁起より アレンジ

昔話の「桃太郎」は、吉備津彦命の「温羅退治」の伝承をもとに作られたといわれます。鬼のモデルになった「温羅」は、百済から渡来した王子で、性格は荒々しく、凶悪で、身の丈1丈4尺(約4m20cm)もあったといわれている。

現在の岡山県総社市の当時は海が入り込んだ先端の切り立った丘の上にある、朝鮮式山城、「鬼の城」に住み、瀬戸内海を通る船などを荒らしまわった。そこで大和朝廷は、武勇の誉れ高い吉備津彦命に鬼(温羅)退治を命じた。昔話の中で桃太郎のお供をした犬とキジは、吉備津彦命の犬飼と鳥飼の家臣といわれ、もう一人の猿がなにかは、わかっていない。捕らえられた温羅は首を切られ、地中深く埋められ、13年間もうなり続けた。ある晩吉備津彦命の夢枕に「ワシの首を吉備津神社のかまどの下に埋めてくれ。そうすれば釜をならして世の吉凶を占おう」。こうして始まったのが鳴釜神事です。御竈殿で行われる釜鳴の神事は、お釜の鳴動の音の大小長短によって吉凶禍福を占う。古く「本朝神社考」・上田秋成の『雨月物語』にも紹介されている。



吉備津神社



吉備津彦神社

この桃太郎伝承・鬼伝説をどう読むか

温羅が朝鮮半島の百濟または新羅の王子としたら、この温羅一族は鉄の技術を持って日本にやってきて、吉備の和鉄の技術を展開した産鉄の民と考えられないか・・・。

出雲のスサノオ伝説が確証はないがスサノオノミコトを新羅の王子として伝承しているのと同じかも。吉備は真金吹く和鉄の国。この鉄の覇権をめぐって吉備と大和との戦いがこの温羅伝説であり、桃太郎伝説と言えまいか・・・伝承を和鉄と重ねると良く符合して理解できる。吉備津神社造営や吉備津神社の鳴釜神事の伝承と結びつけ、温羅は「鬼」ではなく産鉄による吉備繁栄の恩人と考えている人もいる。

吉備の枕詞「真金吹く 吉備の中山・・・・」と歌われた古代の大製鉄地帯 吉備を舞台に鉄の派遣を巡っての戦いそして、日本誕生の幕開けとして吉備で展開された大ドラマ それが「桃太郎」伝説ではないか・・・

鬼ヶ城の上に立ち、眼下に広がる吉備の古代遺跡 製鉄の中心だった中山の丘陵地を眺めながら、この温羅の伝説に思いをはせている

99.5.29. 「鬼ノ城」で by M.Nakanishi

3.2. 鬼ノ城 walk

- 朝鮮からやって来た製鉄集団に思いをはせながら



鬼ノ城山



鬼ノ城 と 鬼ノ城からの展望

総社の町の中を抜け、その背後の丘陵地帯を少し登った所(総社市奥坂)に古代の山城「鬼ノ城」がある。山あいの公園を抜けた小高い丘と丘の間の所に駐車場があり、「鬼ノ城」の立て札がある。

見あげる小高い丘そのものが城砦になっており、「鬼ノ城」。

そこから丘をまきながら小道を頂上に登り、北東の隅の城塞の頂上に達する。切り立った絶壁に、大小無数の石を積み上げた城堡が築かれ、標高四百メートルの頂からは総社市の市街と田園地帯を前に、古代における「吉備の中山」から「吉備の穴海」児島半島までがはるかに見渡せ、四国の山並みまでもが一望できる。

今でこそ内陸の城に見えるが、古代の海岸線ははるかに奥深くまで入り込んでいたらしく、海岸に隣接した「鬼が島」と呼ぶにふさわしい威容だったのであろう。「吉備津」などの地名にその名残がみられる。

「鬼ノ城」は、まさに戦略的に重要な場所に造られた古代の巨大要塞・朝鮮式山城である。「鬼ノ島」「鬼ノ城」と言うとは何か岩山の洞窟と想像していましたが、堅固な城砦で巨大な土木工事がなされた城。「鬼」

がつくった城などというものでなく、吉備の国の立派なリーダーが国を挙げて作ったものであろう。

この城が伝説の「温羅」の城としたら、吉備巨大な勢力をもった集団の居城として「温羅」伝説を「朝鮮半島からやって来た製鉄集団」と考えても良いのではないか

一説にはこの城は大陸からの侵攻に備えた城との考え方も在り、出土品等から七世紀後半から八世紀前半に機能していたとみられる。663年、日本軍が唐・新羅連合軍に敗れた朝鮮半島・白村江の戦いの後、朝廷が建設した大野城（福岡県）や屋島城（高松市）などの朝鮮式山城と構造は似ているが、史書に鬼ノ城に関する記述はなく、「鬼ノ城」が誰によって何の目的で作られたかは謎とされている。



吉備の国 古代遺跡マップと「鬼ノ城」



参考

a. 吉備津宮縁起による温羅伝説

崇神天皇のころ、異国の鬼神が吉備国に空より下った。彼は百濟の王子で名を温羅（ウラ・オンラ）ともいい吉備冠者とも呼ばれた。彼の両眼は爛々として虎狼の如く、蓬々たる堀髪は赤きこと燃えるが如く、身長は一丈四尺にも及び、絶倫かつ剽悍で凶悪であつた。

彼はやがて新山に居城を構え、さらにその傍の岩屋山に楯を構えて、しばしば西国から都へ送る貢船や婦女子を掠奪したので、人民は恐れおののいてこの居城を「鬼ノ城」と呼び、都に行つてその暴状を訴えた。

朝廷は大いにこれを憂い、武將を遣わしてこれを討たしめたが、温羅は兵を用いること頗る巧で出沒は変幻自在容易に討伐し難かつたので空しく帝都に引き返した

そこで、つぎは武勇の間こえ高い孝靈天皇の皇子イサセリヒコノミコトが派遣された。

ミコトは大軍を率いて吉備国に下り、まず吉備の中山に陣を布き、西は片岡山（今の倉敷市日畑西山の楯築山）に石楯を築き立てて防戦の準備をした。

さていよいよ温羅と戦ふこととなつたが、もとより変幻自在の鬼神のことであるから、戦ふこと雷神の如くその勢いはすさまじく、さすがのミコトも攻めあぐんだ。

ミコトの射る矢は、鬼神が岩を投げて空中で噛み合い、海中に落ちた。

そこでミコトは千鈞の強弓で2本の矢を同時に射たところ、一本は岩にあたり落ちたが、1本は見事に温羅の左眼にあつたので、流るる血潮が流水となってほとぼした。（これが血吸川のいわれです）

温羅はたちまち雉と化して山中に隠れたが、ミコトは鷹となって追いかけたので、温羅はまた鯉と化して血吸川に温羅はついにミコトの軍門に降って吉備冠者の名をミコトに献上したので、それよりミコトは吉備津彦命と改称されることとなった。

吉備津彦命は鬼の頭をはねて申し刺しにしてこれを曝した。岡山市の首部（こうべ）はその遺跡とされる。しかるにこの首が何年となく大声を発し、唸り響いて止まらないので吉備津彦命は部下の犬飼建（イヌカイノタケル）に命じて犬に喰わした。それでもなお吠え止まないなのでその首を吉備津宮の釜殿のかまの下八尺を掘って埋めたが、なお一三年の間唸りは止まらず近里に鳴り響いた。

ところがある夜、命の夢に温羅の霊が現われて「吾が妻、阿曾媛をして釜殿のかまを炊かしめよ、幸あれば裕に鳴り禍あれば荒らかに鳴ろう」と告げた。これが吉備津神社につたわる釜鳴神事のおこりとされる。

b. 再度 古代吉備 「鉄」と「鬼」



「吉備の中山」の丘陵地



鬼退治伝説の吉備津彦命を祭る吉備津神社と吉備津彦神社

「真金吹く 吉備の中山 帯にせる 細谷川のおとのさやけさ」

吉備国では後に古今和歌集に「真金吹く 吉備の中山 帯にせる 細谷川のおとのさやけさ」と歌われるごとく、鉄・鍛冶生産が早くから行なわれてきた鉄の一大生産地。

大陸から北九州を経て畿内へ行く途中にある吉備では、いち早く大陸の新しい文化・技術が伝わったであろう。その中で、水田耕作・勢力伸張の大きな武器となった鉄精錬・鍛冶の技術も大きな川と内深く入り込んだ内海での豊富な砂鉄の体積を使って、この吉備の地でいち早く根付き、古代鉄の一大生産地となっていた。

まさに「真金吹く 吉備の中山 おびにせる 細谷川のおとのさやけさ」である。

”真金吹く”は吉備の枕詞であり、製鉄の時に飛び散る火花を象徴。

後の時代の延喜式によると吉備は「調」として鋤や鉄を納める国として記載がなされ、中世以降も備前

刀や備中鍛等の鉄製で吉備の国は、全国に知られている。

「吉備の中山」は吉備の古墳群や国分寺跡が並ぶ総社の丘陵地に隣接する小さな丘陵地。

この丘陵地の麓にも 吉備津神社 吉備津彦神社をはじめ、多くの古代遺跡がある。

この吉備の持つ鉄の技術は吉備の勢力伸張の武器であると共に他の巨大化する勢力にとっても魅力的なものであり、この吉備の鉄の覇権をめぐる、連合・争いが巻き起こったであろうし、この中で吉備は出雲と同様大和の勢力下に組み込まれてゆく事になる。

この鉄の覇権をめぐる争いの伝承が「鬼ノ城 温羅伝承」つまり「桃太郎の鬼退治」の伝承であろう。

ぼかぼか陽気の中 眼下に広がる鬼の城。鬼ノ城」の丘に立ったのはもう随分前 99. 5. 29. 。

「もう記憶も少し薄れているが、ぼかぼか陽気の午後。

こんな温暖の地でたとえ堅固な城であるにしても南に大きく開けた地が「悪者の鬼の城」には似合わない。 もっと 山奥か 人里はなれた未開の土地でなければ・・・。

やっぱり ここでも 鬼は悪者に仕立て上げられたのか・・・・・・・・・・

産鉄の民と支配者との争い 大和にとっては悪者であっても 吉備では良き隣人・恩人でなかったか

「鬼」「鬼」と悪者として追いまわす中に何か親しみをこめ、「福は内 鬼は外」と豆をまく節分。

21 世紀のキーワードと言われる「敵対・抹殺から融合・融和へ」鬼伝説の中にある「親しみ」もこれではないか・・・・・・・・

鉄は両刀の刃。古代 そして日本の伝統の中に 21 世紀を生き抜く解がないか・・・・・・・・・・

2002. 2. 24. 柏にて 鬼に親しみをこめて by M. Nakanishi

「真金吹く」吉備の国 吉備の鉄と桃太郎伝説

【完】

「真金吹く」吉備の国 吉備の鉄と桃太郎伝説

1. 稲作と鉄器の伝来が縄文の智恵と融合して原日本がつけられた
2. 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
 - 「弥生の`暮らし」を持たらした大陸からの渡来人 -NHK 「日本人遥かな旅」より
 - 古代 吉備の国 「鉄」そして「鬼」
3. 吉備の国「桃太郎伝説」の原型となった「温羅・うら伝説

- 参 考 日本 鬼伝説

2002. 3. 2. by M. Nakanishi